

# 昭和二十九年度

## 早慶戦に初優勝して

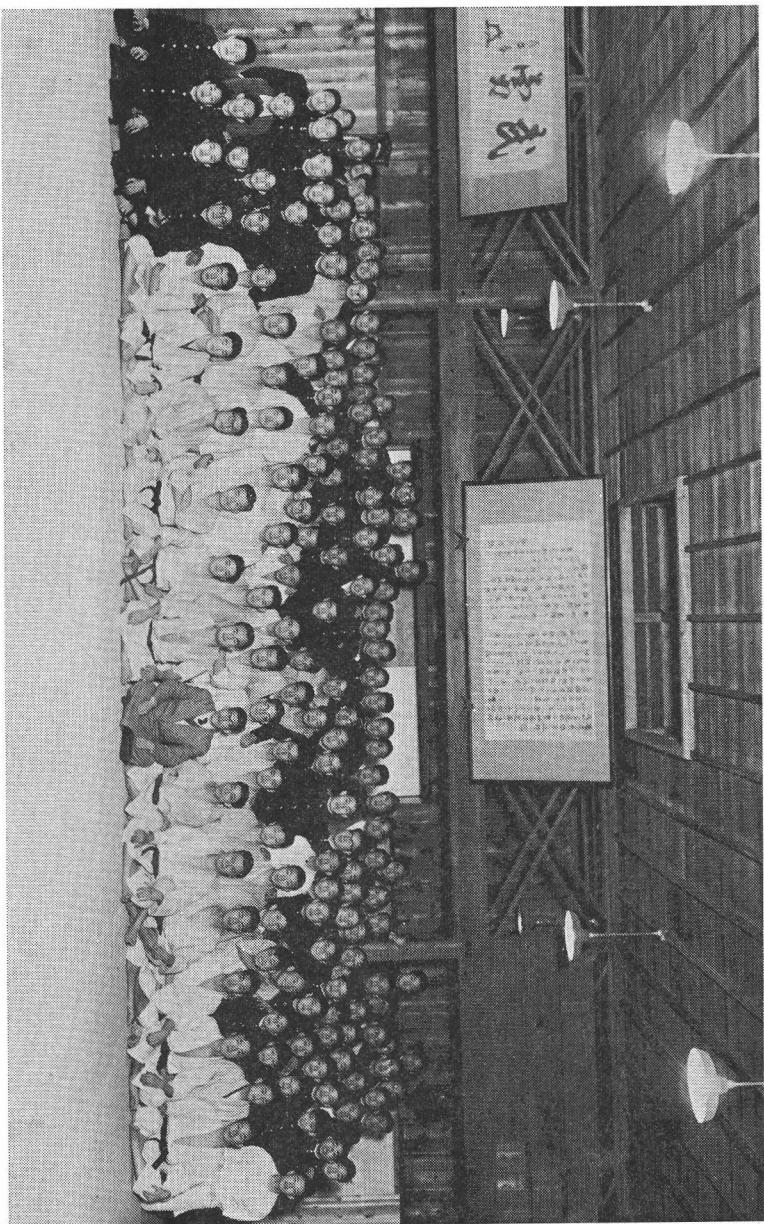
熊切昭男

昭和二十九年十一月二十八日（日）、暮色迫る講道館（旧）に大歎声が湧き起つた。我が柔道部が早慶対抗柔道戦で、史上初の勝利を得た瞬間である。この試合は戦後の復活第二回、通算では第六回に当る。本塾柔道部は戦前、幾多の秀れた選手を擁しながら、尚連敗の記録に甘んじ、復活第一回（昭和二十八年）に於ても重ねて敗北の涙を呑んだ。爾来一年、我々は昨年の雪辱を期して日夜稽古に励み、一日千秋の想いで来るべき戦いの日を待つたのであるが、夢にまで見た初勝利を得た感激は生涯忘ることのできない想い出である。ここで当日の戦跡を大づかみに眺めてみよう。

・出場選手 両校各二十五名

・段位構成 本塾：四段二名、三段十二名、二段十一名

早大：四段三名、三段十五名、二段七名



昭和二十九年卒業生送別記念

を拡げることなく着実に中堅三段陣へのバトンタッチを果してくれた。これを受け山際君が一人抜いて二人目と分け、続く成毛（韶）君は惜しくも判定に敗れたが次の長戸君がたちまち二人を降して三人目引分とし、ここで十六人目を以て彼我同列に戻り、試合経過を示す線は力強く垂直に立ち直った。この辺り試合は正に山場にさしかかり、開始前四分・六分で本塾不利との大方の予想もあったことから、塾の健闘によつて場内はいやが上にも興奮の昂揚と化してきた。さて、十七番目河合君は巴の連発によつて善戦の末引分、次の高松君は惜しくも一敗を喫したが、十九番目萩原（現、関）君が目のさめるような巴投げで仇打ちを果し、二人目は手固く引分け、再びタイに戻して田坂君にバトンタッチ。ここで田坂・吉川・遠藤の三君は平素の稽古で積み重ねた自信と冷静沈着な精神力を以て敵上位中堅陣と互角に渡り合つてタイをキープ、優勢に立たんとしてあせり気味の早に対し貴重な守備作戦を全うしてくれた。かくして一進一退、死力を尽した両校若人達の激闘は、よいよ最後の大詰に近づいた。塾の三将堀越君。小兵ながら切れ味鋭い大内、体落しで善戦せるも早大三将北崎君の合せ技に惜敗、塾は副将宮崎君の登場となつた。紫電一閃、天下に轟く豪快な大外刈。宮崎君当然の如く一撃の下に北崎君を降し、猛然と敵の副将川端君に挑む。川端君は野牛の如き重量感あふれる早大の雄であるが、宮崎君の氣迫に呑まれ、ひたすら防戦に終始する結果となつた。しかしさすがは歴戦の戦士、右大外刈、左右釣込足と攻めたてる宮崎君の猛攻も効果を出し得ず、時間切れ引分とされてしまった。遂に史上初の大将戦。冷厳な現実の前に、私は全ての心の迷いを吹き切つた。早の大将石井君は俊敏な技師として当時著名な選手であり、又、私にとっては前年講道館の月次で僅か三秒にして宙に舞わされた宿敵でもあつた。試合開始。スヌック、スヌックと引きが来る。微妙なりズム感。昨年の感触が昨日のように甦つた。それは次の瞬間、素晴らしい弾性を伴なう強襲に転ずる前ぶれである。双方探りの技を出すが通じない。時が流れる。突如私は石井君の右足と自分の右足がからんだように思つた。次の瞬間、左足を支柱に、私は全身で相手を真後ろに押し倒した。

審判が技アリを宣し、私は上になつたまま石井君にしがみついていた。右足がはさまれている。「抜かなければ押え込みに入れない。しかし身体が浮いて逃げられたら再び立技に戻る。それは危険だ。」こんな想いが頭の中をぐるぐる廻る。結論は出た。私は百パーセントの安全コースを選び、見栄も外聞もなく全力で石井君にしがみついていた。戦いは終つた。大歓声の中で私は深海の底に居るような静寂を感じていた。二十年余を経た今でもはつきり想い出せる不思議な感覚である。

経過はさつと以上の如くだが、当時をご存じの方はすぐお判りの通り、塾のオーダーは誠にユニークであり、清水師範を中心に再三再四作成・改正されて出来上つた苦心の作だった。早大のマネージャーをして「これは間違いではないんですね」と念を押されたエピソードは当時有名な話しだった。二十五名の出場選手。内、四年生十三名といふことも面白い。卒業を目前に最後の早慶戦にかける意気込みはすさまじく、昨年の雪辱に加えて我々の闘志をいやが上にもかき立ててくれたこともあずからて力があつたと思う。翌朝の新聞は揃つて「慶の闘志早を上廻る」と報じた。当時を振返るとあの一年は大変長くも又短くもあった。年間を通じては学生の東西対抗、個人選手権、全国大学優勝大会をはじめ多くの試合があり、想い出もあるがやはり早慶戦だけは全く意味合いの違う次元に在つたと思う。

一つの試合に勝つというのは「実力」のみでなく幾つかの好運や偶然もあっての結果と思うが、たとえそうでもこの初勝利は「人事を尽して天命を俟つ」と云うか、努力を傾けて総力戦の限界に挑んだ結果獲得した好運であり、偶然だつたとは信じがたい。団体戦、とくに勝抜戦式の場合は、選手自身のレベルは云うまでもないが、加えて「チーム精神」の涵養が一層大切であつて、試合に先立つてこの点の徹底を如何に図るかが一つのポイントであろう。そして更に重要な要素として「オーダー編成」を忘れるわけにゆかない。こう考えてみると、我々が得た初勝利とは、前述の各要素が美事に消化され、欠落なく組み上げられた総合力の結果であつたに違いない。そしてこれは、清水師範

を中心に羽鳥・成毛（秀）両先輩をはじめとする諸先輩の指導陣が、血氣にはやる我々選手をバラバラでなく一つの結集したチーム力として高いレベルに導かれた結果に他ならず、改めて頭の下る想いである。試合終了後、綱町道場に帰り、車座で祝勝の宴が張られた。私は殆んどこの記憶がない。多分極度の感激で半ば放心状態だった為と思う。ただ、清水師範が云われた一言は今でも耳の底にこびりついている。——「熊切君。あこでババッと足を抜いて押え込みに入れば立派だつたいねエ。」

△後記▽

部史編纂室からこの稿担当の指名を頂いた。たまたま初優勝時の大将だったこと及び同期のキャブテン宮崎君在米中の故のことである。すでに二十年余を経た今日、事前に当時の出場選手各位にご意見を聞き、衆知を集めた上そのとりまとめを担当すべきが順序であるが、雑事に追われてこの手続きを省略させて頂いたことをお詫びしたい。又、末尾ながら本稿執筆時、当時の選手二十五名の内、乾・水藤の両君はすでに他界されている。共に戦った一人として改めて両君の冥福を祈りたい。

## 慶應高校・全国大会に準優勝す

福田靖与

昭和二十九年度は私が三年生（上級生）として在学し、幸運にも慶應義塾高等学校が輝かしい実績を残し得た年で

すが、二十余年を経て顧りますとそれは当時我々が高校生として柔道を学ぶのに最も恵まれた環境にあつた一つの帰結であつたように思われます。

少し考えただけでも次のようないくつかの条件が挙げられます。まず第一に熟柔道関係者に慶應柔道復活の意気が漲つており、我々を非常に大切にして下さった事。第二に土曜日の稽古等には多数の諸先輩が御来訪になり、誇りある伝統を肌で学べた事。第三に清水正一、朝飛速夫という素晴らしい師範に恵まれた事。両先生は我々の合宿でも寝食を共にし教授して下さいました。第四に数多くの現役の先輩が毎日稽古をつけ励ました事。第五に高校の仲間にも恵まれた事。各級十人以上の部員がおり、異った型の練習相手が揃つておりました。第六に日々稽古を行つた日吉嶺谷道場も、土曜日の三田綱町道場も共に百疊以上と広く思い切つた練習が出来た事、等であります。

斯様な好環境に恵まれた我々は三年に進学する迄には可成り勝癖のついた集団となつておきました。山際正明先輩が主将を勤められました学年を送別して後、春の合宿、神奈川予選、全国大会に備えての夏の合宿を経て日光市に於ける七月三十一日及び八月一日挙行されました第三回全国高校柔道大会に臨んだわけです。

本大会で多くの学校仲間から我校が代表校となり得ました陣容は、先鋒が怪力無双で堅実な柔道をする小倉英夫君（三年）、次鋒が懐が深く右の大外刈と内股が得意な渡辺明治君（二年）、中堅が流れる様な柔道で左の釣込腰、大内刈を放つ檜山治君（二年）、副将が私、大将が重量級で右の大外刈をする稻田詢君（三年）でありました。

清水、朝飛の両先生並びに多数の先輩に付添われて夏の日に蒸しかえす日光市体育館に到着、大試合特有の熱気に入酔つてゐるうちにすぐ出番がまわつて來ました。三校リーグの第一試合で、相手の安来高校の選手は皆いが栗頭であり精悍で強そうでしたが四対零で快勝しましたが、第二試合の大坂工大高とは二対二の引分となり、安来に対する勝点差で辛くも切抜けました。

決勝トーナメントは第一回戦北海高を三対一、第二回戦盈進商を三対零、そして準決勝で大敵東海高校を三対一と降し、決勝戦で安房一高と対決する事となりました。

この安房一高は私が高校一年の折夏の合宿でお世話になった学校で、御名前は失念しましたが我々が大坊主、小坊主とあだ名しました先生の厳しい指導の下に広い道場で修練を積み、我々に休む暇も与えなかつた気迫のある学校だけにやはり大敵でした。

準決勝の後の休憩、両先生の御注意、先輩の励の言葉、静まる場内への入場、そして試合は始まりました。然しながら本大会快調に勝続け、決勝進出の原動力となつた小倉、渡辺の両君が引分けとなつた為戦は非常に苦しくなりました。そして中堅の檜山君が敵の中では傑出していた高尾選手に送襟絞で破れ、零対一で私にまわつて来た時は本大會負けもこんでいた為不安の極に達しましたが、不思議な事に優位にあるべき敵の菅選手が私以上にあがつており幸いにして左釣込技有優勢勝となり、大将の稻田君が引分けて一対一で決定戦が行われる事となりました。

我方の代表小倉選手は重圧にもめげず、何時もの通り沈着冷静に堂々と闘いましたが、残念ながら敵方高尾選手の一瞬の大外落に破れる所となりました。小倉君の健闘は真に賞賛すべきものでありました。決勝戦で我々の不運は勝つ確率の高かつた渡辺君が敵の反則で足を負傷し、力を充分發揮出来なかつた事にあつたよう思います。

同安房高校とは十月の関東大会決勝で再度対戦し、三対一で雪辱して優勝しましたが、私には全国大会の印象が余りに大きく殆んど感激はありませんでした。

顧りますと右記の通りの我々の高校柔道生活は誠に恵まれたものでありました。これを可能にして下さいました皆々様に深く御礼申し上げる次第です。終りに不幸にして先年癌で亡くなられました我等が恩師朝飛先生の御冥福を祈り筆を置き度く存じます。

役

員

部長  
範

"

監督

主将

幹事、体育会本部常任委員  
幹事、塾内対抗競技部委員

幹事

マネージャー

幹事

学柔連委員

## 寒 稽 古

一月十一日より二十四日迄二週間

六時～七時於 綱町道場

新幹事運営の初行事である恒例寒稽古は、戦後はじめ  
て行われた昨秋の早慶戦の惨敗に対する部員の雪辱に燃

木村 高川 沢村 高吉 乾 原 岩原 乾 原 岩原 朝 岩原 朝 岩原 朝 岩原  
 高 松 沢 村 吉 松 岩 原 乾 原 岩 原 乾 原 岩 原 乾 原 岩 原 乾 原  
 川 倉 静 文 永 雄 永 雄 俊 昭 俊 昭 乾 原 乾 原 乾 原 乾 原 乾 原 乾 原  
 橋 本 正 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切  
 清 速 輝 刚  
 橋 本 正 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切 久 切  
 熊 崎

ゆる意氣激しく、学生と一緒に体育会本部に泊り込んだ  
清水師範をはじめ多数の先輩方の熱のある指導により初  
日から火花を散らす様な稽古がはじめられた。

上は大學四年から下は普通部・中等部生に至る二百數  
十名の部員に加えて、大阪警視庁の広瀬先生をはじめ  
四、五名のメンバーも参加され道場は満員、まるで芋を  
洗う様な有様を呈し、寝技などは危険で全く出来ない状  
態であった。

二十三日から降り続く雪が二十四日の最終日を白銀の  
世界と化したが七八十八名の皆勤者を得て寒稽古を無事終  
了した。

## 皆勤者

大学四年 竹田博、小川浩一

三年 宮崎剛、熊切昭男、田坂昭、萩原正夫、乾俊夫、  
蜷川謙一、河合靖之、水藤三郎、竹内正和一年 高松静男、金成禪徵、田中浩司、近田富男、吉川  
文雄、友田昌利、永井稔一年 長戸英夫、広瀬久也、藤間哲也、山崎慎之介、木  
村洋、長沼徹、佐藤安太郎、真島武、生盛貞夫、  
大谷熙

高校 平柳邦生、松吉賢三、池上壯一郎、川上堅吉、寺

## 九・八級

7 ○	6	5 ○	4	3	2	1
吉 清	清	野 堀 川 上				
村 水	水 沢	上 野				
穩 稳	真 佐 男	俊 雄 為 義 三	男			
合 技	製 売 固	大 外 刃	足 扱	大 内 返	合 技	大 外 返

## 進級月次試合

一月二十四日

○	○	○	○	○	○
永 吉 渡 清	野 堀 川	上 野			
岡 村 辺 水 沢	上 野				
秀 紀 久 男	真 佐 男	俊 雄 為 義 三	男		

普通部  
 朝倉実、柿本亮司、吉村稔、清水真佐男、鈴木邦夫、古森義久、川上隆三、渡辺紀久男、丹羽電二、野沢俊雄、島田辰雄、萩原正光  
 中等部  
 清水徹、島津武久、上原惟道、岡島三代蔵、上野定男、沢芳博、堺為義、飯野紀夫、今城伝、高田以上七十八名  
 田緒太郎、馬目広道、山際正明、小野灘、福沢雄吉、岩佐八郎、奥田清一、星野敬、稻田詢、伊藤照彦、鈴木正毅、森岡謙二、大谷正賢、河端孝、小倉英夫、佐々木真一郎、橋本光藏、阿部大助、豊永勝、檜山治、早川鉄三、渡辺明治、後藤一大太、竹内利夫

丙	七
4 3 2 1 乙 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	六級
堀 森 大 広 甲 上 萩 清 鈴 島 朝 大 飯 七	半 小 吉 村 村 村 村
内 田 熊 瀬 組 原 原 水 木 津 倉 熊 熊 野	田 林 村 村 村 村
義 洋 基 照 惟 正 英 啓 武 国 紀 夫	俊 之 介 浩 一
太 郎 典 之 夫 道 光 範 之 久 実 之	

大 外 刃	大 外 刃	大 外 刃	引 横 四 方 引 鈎 達 腰 引 分	引 分	引 分	合 技	引 分	引 分	背 負 投	大 外 刃	大 内 返
大 外 卷 达											

○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
奥 堀 森 大 阿 上 萩 清 鈴 島 朝 永 大 沢	山 内 田 熊 部 原 原 水 木 津 倉 田 熊 田 沢	清 義 太 郎 典 之 俊 惟 正 英 啓 武 国 昌 国 昌	明 太 郎 典 之 之 道 光 範 之 久 実 之 久 実 之 久	古 森 義 久	半 田 浩 一	小 林 邦 一	林 芳 博	鈴 伸 澄	吉 賢 三	小 野 塚	松 吉 省 澄

## 五級

4	3	2	1	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
○	○	○	○	真	馬	馬	和	和	岩	岩	川	浅	加	後	草	草	草	草	草	奥	奥
奥	奥	矢	矢	級	真	馬	馬	和	和	岩	岩	川	浅	加	後	草	草	草	草	奥	奥
野	野	沢	沢		島	目	田	田	崎	瀬	鍋	川	藤	藤	野	野	野	野	野	山	山
燕	賴				廣				駿	安	達	正	順	一					計	清	
兒	道				武	道			弘	介	正	朗	幸	介	太				重	明	

内	拵	引	釣	込	巴	体	大	内	引	合	背	引	優	引	肩	大	外	体	拵	大	内
股	腰	分	腰	投	落	内	刈	返	股	分	技	投	分	勢	分	固	落	外	腰	落	刈

○	川	小	奥	柿	○	○	松	真	河	馬	野	奥	和	岩	川	○	○	○	○	本	明	福	○
上	野	野	本		吉	鳥	端	目	沢	田	田	崎	瀬	鍋	川	藤	藤	重	石	沢	野	木	
堅	英	燕	亮		賢	孝	広	真	清			駿	安	達	正	順	一	栄	祥	雄	計	正	
吉	之	見	司		三	武	充	道	郎	一	弘	介	正	朗	幸	介	太	一	正	吉	重	一	

## 丙

・  
組

6	5	4	3	2	1	乙	進	級	月	次	試	合	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5
川	奥	生	堀	荒	広		鈴	阿	早	漆	平	平	平	永	永	永	岩	池	寺	川					
鍋	山	盛	内	木	瀬		木	部	川	山	柳	柳	柳	井	井	井	上	上	田	上	上	田	上		
達	清	貞	義	正	照		正	大	鉄					邦			寛	壯	堅	太	一	郎	吉		
郎	明	夫	太	郎	一	夫	道	助	三	孝				生			稔	治	太	一	郎	吉			

大	内	刈	小	外	掛	送	織	絞	崩	袈	裟	大	外	刈	優	勢	拵	卷	込	大	外	落	引	分

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
本	川	奥	生	堀	荒		佐	鈴	阿	早	漆	浜	鍋	平	塚	永	岩	池	寺					
重	鍋	山	盛	内	木		藤	木	部	川	山	野	田	柳	田	井	上	上	田					
栄	達	清	貞	義	正	一	安	正	大	鉄	充		邦	喜	寛	壯	太	一	郎	吉	太	一	郎	吉
郎	明	夫	太	郎	一		道	助	三	孝	功	剛	生	章	稔	治	太	一	郎	吉	重	一	郎	

二月二十日

無審

13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	九 ・ 八 級	2	1	查	11	10	9	8	7	○	本 ・ 本 重 重
杉	清	清	阿	植	閔	渡	渡	野	大	服	坂	土	渡	廣		佐	後	森	本	本			
浦	水	水	部	村	根	辺	辺	沢	島	部	田	田	辺	瀬		藤	藤	田	重	重			
			智	健	隆	紀	久	拓	英	金	寵				善	一	洋	榮					
潤	徹	応	次郎	範	男	雄	太郎	哉	司	清					之	太	典	一					

引 分 送足払 大内返 引 分 製婆固 足 払 大内刈 優 勢 大外刈 引 分 裸 紋 大外落 大内返

七

橫四方	大內刈	外刈
大外落	引分	蓑妻固
引分	釣込腰	扒腰
背負投	優勢	扒腰
優勢	引分	崩妻婆

○ 今 蔵 阿 清 別 加 伊 朝 大 飯 菊 島 古 高 小 堀 沢 石 川 島 銀 植  
城 原 部 水 府 藤 藤 倉 熊 野 地 津 森 橋 林 井 上 田 川 村  
正 俊 英 国 紀 錦 武 義 真 浩 為 芳 隆 辰 晃 剛 太 郎  
伝 光 之 篓 仁 昇 穀 実 之 助 久 久 円 一 義 博 彰 三 雄 光

## 三

6 5 4 3 2 1	13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	13 · 甲組 · 13 今
岩和明塚川	○ 川 岩 池 斎 矢 奥 河 岩 上	上田 · 城
上田田神田上	田 上 藤 沢 田 田 端 濑 崎 原	原
寛敏喜堅	嘉 壮 栄 賴 清 孝 安 駿 惟	駿惟
治弘夫章吉	吉 行 郎 二 道 一 充 正 介 道	伝

優 引 優 大 製 送	内 内 崩 大 優 送	肩 優 引 優 崩	大 外 刃	支 鈞 达 足
勢 分 勢 外 落 固	股 股 姿 姿 外 劍	足 扳 固 勢 分	上 四 方	

友 岩 松 ○ ○ ○	森 川 小 岩 ○ ○ ○	寺 奥 ○ ○ ○	河 岩 ○ ○ ○	小 磯 忠 昭
田 上 吉 田 神 田	岡 上 野 田 上 藤 沢 田 田 端 濑 崎 島 嶋	寺 奥 ○ ○ ○	河 岩 ○ ○ ○	
昌 寛 賢 敏 喜	謙 堅 嘉 壮 栄 賴 清 孝 安 駿 三 代 藏 介	寺 奥 ○ ○ ○	河 岩 ○ ○ ○	
利 治 三 弘 夫 章	二 吉 澄 行 郎 二 道 一 充 正 介 道	寺 奥 ○ ○ ○	河 岩 ○ ○ ○	

先鋒 ○ ○ ○ ○ ○	卒業生	無級審査
小 小 小 小 野 野		5 4 3 2 1
林 林 林 林 上 上		○ ○ ○ ○ ○
秀 郎 幸 男		三 三 三 三 三
	卒業生	10 9 8 7
		○ ○ ○ ○ ○
		馬 友 田 目 広
		川 日 田 鉄 道
		清 之 利

返 技 大 外 返 技	返 技 大 外 返 技	無級審査
技 分 背 負 投	技 分 背 負 投	5 4 3 2 1
釣 达 腰	釣 达 腰	○ ○ ○ ○ ○
先鋒	先鋒	三 三 三 三 三
(中等部、普通部、大学部有段者から五名並)		10 9 8 7

阿 小 萩 鈴 菊 朝 伊	現 部 員	○ ○ ○ ○ ○
部 磯 原 木 地 倉 藤		馬 平 目 広 道

卒業生送別試合  
二月二十八日於綱町道場  
(中等部、普通部、大学部有段者から五名並)

福 福 福 高 高 高 高 高 高 高 竹 竹 小 小 小 小 小 鈴 鍋 漆 紀 小  
 田 田 田 井 井 井 井 井 井 井 田 田 川 川 川 川 川 木 田 山 内 林  
 邦 浩 良  
 満 (4) 夫 (3) 裕 (3) 二 (2) 升 (2) 剛 孝 介  
 跳 巴 跳 扌跳 跳 小 外 跳 跳 内 股 裸 体 大 内 引 分 大 内 引 分  
 腰 投 腰 腰 腰 腰 外 刃 腰 腰 股 絞 落 分 大 内 反 腰 大 内 反 分  
 ○ 横 佐 鈴 岩  
 藤 宗 橫 長 山 星 檜 渡 鈴 和 田 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩  
 間 倉 宮 刃 岬 沼 刃 佐 木 (澄)  
 佐 木 (澄)

○ 福 田 田 跳 腰  
 ○ 福 田 大 外 落 近 田 刃  
 ○ 福 田 広 濱 刃  
 ○ 福 田 引 分 稲 田 刃  
 ○ 福 田 跳 腰  
 ○ 福 田 大 外 落 近 田 刃  
 ○ 福 田 広 濱 刃  
 ○ 福 田 引 分 稲 田 刃

大将萩原(3)以下六名を残して現役軍の勝。

### 体育会功労賞選手章受賞者

功労賞受賞者 福田満、鈴木昇、高井邦夫  
 選手章受章者 福田満、鈴木昇、高井邦夫、小川浩一、  
 竹田博、紀内良介、野上幸男、鍋田剛、  
 漆山孝

### 柔道部の状況

(昭和二十九年四月頃発行の柔道部報復刊第二号より)

四段 二名、三段 九名、二段 九名、初段 三一名  
 一級 一名、二級 六名、三級 二十名、四級 五名、  
 五級 六名、六級 十一名、七級 十八名、八級 二四  
 名、九級 二三名、甲組 十八名、乙組 二十八名、丙  
 組 二十二名 合計 二百三十二名

### 普通部部内柔道大会

三月十二日(土)午後二時より

普通部柔道部二十八年度最後の行事として、朝岡柔道部長、蜷川監督出席の下、四十人を越える普通部生が参加して行われた。

### 試合成績

八級以下の部 Aブロックでは植村剛太郎が小林浩一を大外返に破り、Bブロックでは植村健次郎が見事な大外刈で加藤を抛り、勝ち残った。かくして植村双子兄弟によつて優勝が争われ、決勝戦は非常な熱戦となり殆んど

優劣がなかつたが、僅かに積極的に出ていた兄剛太郎の優勢が認められ、植村兄の優勝となつた。第三位は小林浩一。

七級以上の部 優勝は奥野燕児、第二位は別府仁、第三位加藤となつた。

技能賞が八級以下の松吉省三、古森義久、武田の三君に与えられた。以上の結果目立つことは、七級以上でも八級以下でも一、二年の活躍が目ざましく、三年生が不振であつたこと。これは明年、明後年の普通部の活躍を期待させる心強いものであつた。

### 於 日吉蝮谷道場

稽古は他流稽古を主に、午前は警視庁道場、午後は講道館にて行つた。参加者は次の二十二名。

宮崎剛、熊切昭男（以上四段）、田坂昭、萩原正夫、山河合靖之、乾俊夫、吉川文雄、高松靜男、長戸英夫、山際正明、鈴木一男（以上三段）、蜷川謙一、水藤三郎、堀越忠義、田中浩一、伊東弘人（以上二段）、横倉永一、金成禱徵、山崎慎之助、小高登志、頭山統一、小野喜也（以上初段）。

### 朝飛速夫師範を迎える

四月十五日

本年度より師範として六段朝飛速夫先生をお迎えし

た。

### 春季大会

四月二十九日九時より 於 綱町道場

段外者紅白試合

紅

先鋒	猪原満也	大外刈	先鋒○沢井正明
松本嘉久		合技	○沢井

白

### 春季第一回有段者合宿（大学）

四月一日より一週間 於 綱町道場

○ 堀住 広植 ○ 植白 白 大田 植植 清清清 清 川松渡杉大長  
 内谷瀬村 村川川熊北村 村水水水上吉辺浦島戸  
 義照 刚太郎 国健次郎 真佐隆省紀久男 拓太郎 和夫  
 太郎誠夫 一之垣

大外刈 優勢 裂婆固 引大外刈 一本背負  
 外落 大内刈 裂婆固 大外刈 優勢 分裂婆固  
 割引 分裂婆固 引大外刈 横四方 大内刈 裂婆固  
 割引 分裂婆固 横四方 大内刈 裂婆固 横四方  
 内股 分

○ 朝朝朝西伽伽岩沢 ○ 小古片阿阿下銀家 ○ ○ ○ ○ 沢  
 倉倉倉田藍藍崎 林森岡部部村河中 井  
 章佳 芳浩義 智晃智 四  
 実高夫 博一久崇 応裕光之 宝

○ 斎馬岩池真福河河森奥奥野川加奥荻友友阿堀  
 藤藤目崎上島島原端端岡野野沢鍋藤山山原田田部内  
 晴広駿壮一孝謙燕達順清正城俊  
 夫道介郎武雄充二児朗介明光之

大外刈 大外刈 内股 引引体引引裂婆固 優引 優引  
 大内刈 卷分 分落分分 勢分勢分落落 上四方 上四方  
 大内刈 引分 分

○ 川閔閔奥岩寺磯菅浅島森草草草清鈴鈴吳三渡  
 上田瀬田沼原川川田田野野野野水木木品辺(容)  
 堅栄清安縦輝由正章洋計英啓四  
 吉次郎一正郎男雄幸平典重範之宝

## 有段者紅白試合

○ 田 蟻 檜 檜 ○ 近 渡 橋 佐 阿 先鋒	○ 鈴 友 田 正 道 大外刈
中 川 山 山 山 田 辺 本 木 部 部 紅	木 田 昌 利
浩 謙 富 明 光 真 一 郎 助 一	
司 一 治 男 別 治 朝 別 一	
(2) (2) (2) (2)	
引 分 大 外 優 優 釣 釣 小 外 引 扯 大 外 優	裂 妻 四 方 上 巴 投 大 外 刈
外 刈 勢 勢 達 腰 達 腰 外 挂 分 腰 外 達 勢	
伊 広 広 伊 小 小 星 星 平 塚 塚 先鋒	大 将
東 濱 濱 藤 倉 倉 野 野 柳 田 田 白	○ 松 松 川
弘 久 照 英 邦 喜	阿 平 長 吉 吉 上
人 也 彦 夫 敬 生 幸	部 柳 島 田 賢
(2) 別 別 別 別 別 別 別 別 別 別 別 別 別	大 邦 喜 幸 三

五段	八人掛	四段	七人掛	大将
成 毛 英 臣		福 田		熊 河 切 合 昭 靖 男 之 (4)
○ 大 外 卷 达	○ 大 外 卷 达 ○ 扯 腰 ○ 合 技 ○ 合 技 ○ 大 外 卷 达	引 分 ○ 跳 腰 ○ 送 絞 紹 ○ 内 股 ○ 上 四 方 ○ 大 外 刈	满	引 分
堀 成 田 近 福 伊 渡 橋	蟋 檜 小 星 佐 阿 伊			乾 山 遠 堀
越 毛 中 田 田 藤 辺 本	川 山 倉 野 木 部 東			際 藤 越
忠 韶 浩 富 靖 照 光	謙 英 真 大			俊 正 千 忠
義 夫 司 男 別 与 彦 別 藏 別	一 治 一 郎 助 敬 別			夫 明 春 (2) (2) 義
(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)				

五人掛

水 谷 英 男	先 輩	○ 合 技	遠 藤 千 春(2)
	○ 大 内 刖	○ 体 落	山 際 正 明(3)
足 扱	○ 足 扱	乾 切	河 合 靖 之(3)
足 扱	○ 熊 切	昭 俊	男 (4) 夫(3)
足 扱	○ 乾 切	昭 俊	夫(3)

第三回東京・関東学生柔道

段別選手権大会

五月九日十時より 於 講道館

初段の部

第一回戦

頭 山 統一(本塾)	合 技	○ 下 泉(日体大)
廣瀬 久也(本塾)	跳 腰	○ 稲 留(水産大)

二段の部

第一回戦

○ 遠 藤 千 春(本塾)	優 势	尾 崎(水産大)
○ 成 毛 韶 夫(本塾)	優 势	川 端(立 大)
○ 遠 藤 千 春(本塾)	優 势	○ 渡 辺(政)(明大)
○ 成 毛 韶 夫(本塾)	優 势	○ 渡 辺(政)(明大)
○ 遠 藤 千 春(本塾)	優 势	○ 渡 辺(政)(明大)
○ 成 毛 韶 夫(本塾)	優 势	○ 渡 辺(政)(明大)

577 昭和29年度

第三回戦

三 段 の 部	成 毛	遠 藤	横 四 方
第一回戦	河 合	靖 之(本塾)	○ 渡 辺(中 大)
四 段 の 部	乾 俊	優 势	○ 今 田(教 大)
第一回戦	河 合	靖 之(本塾)	内 股
第二回戦	乾 俊	優 势	○ 清 水(法 大)
第一回戦	河 合	靖 之(本塾)	○ 佐 々 木(法 大)

第三回東京学生柔道優勝大会

六月十三日(日)十時より 於 講道館

本年度より全日本大会には従来の八校選抜制度より六校制度となつた為、例年より激戦となつた。幸にして塾の主張した敗者復活制度が採り入れられた為、実力のある学校は殆んど確実に選抜されるようになつて居り、第三回戦で当代随一の明大に敗退した塾も敗者復活戦により東京代表となつた。

○ 遠 藤  
○ 成 毛

優 势  
小 外 刖

吉 野(東経大)  
中 久 嘉(水産大)

## 第一回戦

		第一回戦									
		先鋒		大將		大將		先鋒		本	
第三回戦		○宮	○乾	○遠	○吉	○宮	○乾	○遠	○吉	戸	本
吉	長	○熊	○宮	田	○吉	○熊	○宮	田	○吉	戸	本
川	戸	切	崎	坂	川	切	崎	坂	川	戸	本
文	英	昭	俊	藤	戸	昭	俊	藤	英	英	塾
雄	夫	男(3)	剛(4)	春(3)	雄(3)	男(4)	剛(4)	春(3)	雄(3)	夫(3)	5
(3)	0	0	6	0	0	5	1	1	優勢	大外落	先鋒
内	股	内股	小外刈	内股	引分	横四方	大外刈	崩上四方	引分	崩上四方	先鋒
○	渡	合技	大将	大将	先鋒	大将	大将	大将	大将	伊	東
○	渡	明	高根	広難	鈴原	佐々木	中久	日尾	室伏	小藤	大粥
辺	林	林大	橋本	野波	木田	大	中山	留高	崎伏	藤	大

以上で明大、日大、早大、教育大の四校が選抜され、残る二校を塾と法政、中央、拓大の三校に勝ち東京代表校となつた。

		敗者復活戦									
		先鋒		大將		大將		先鋒		本	
		○宮	○乾	○山	○萩	○宮	○乾	○坂	○山	○昭	本
萩	長	○熊	○宮	高	萩	○熊	○宮	坂	○山	昭(3)	本
原	戸	切	崎	松	原	切	崎	俊	昭(3)	正(4)	本
正	英	昭	俊	正	静	昭	俊	俊	正(3)	夫(3)	塾
夫	夫	男(3)	剛(4)	明(3)	男(3)	男(4)	剛(4)	夫(3)	引分	内股	大内刈
(3)	5	5	2	2	2	1	1	1	引分	大将	大将
優	勢	合技	払釣込足	崩上四方	大内返	引分	引分	引分	大将	岩	渡辺(政)
稻	富	稻富五十嵐	拓	清水	星井	○名久井	藤原	佐々木	佐々木	高沢	大

大将 ○ 稲 ○ 福 ○ 檜 ○ 豊 ○ 永 ○ 勝治  
 田 田 山 靖 記(2) 与(2) 治(2)  
 合 技 縱四方  
 大将 小 秋 高 桜 井  
 泉 本 田

先鋒 ○ 渡辺 明治 初  
 大外刈 先鋒  
 釣込腰

慶應高校 5 — 0 橫須賀高(B)

## 第一回戦

三十五校五十七チームが参加して行われ、本塾Aチームは堂々と栄ある県下三年連続優勝を成し遂げるとともに、三年連続全国大会出場権を獲得した。Bチームは四回戦で惜しくも抽選負となり涙をのんだ。

Aチーム

六月十三日(日)午前九時より

於 県立三浦高校

○ 高松 静男(3) 合技  
 ○ 山際 正明(3) 引分  
 ○ 乾俊夫(3) 逆十字  
 ○ 宮崎剛(4) 横四方  
 大将 ○ 熊切昭男(4) 支釣足大将  
 中井今永

原田佐藤

## 第三回神奈川県高等学校柔道大会

(全国大会神奈川県予選)

## 第四回戦

大将 ○ 稲 ○ 福 ○ 檜 佐々木 渡辺 明治 初  
 田 田 山 靖 真一郎 初  
 記(2) 与(2) 治(2) 内股  
 繩四方 一本背負  
 大将 中 古 馬 桜  
 村 屋 場 丘 高  
 裂縫固

先鋒 ○ 渡辺 明治 初  
 大技刈 先鋒  
 横内藤

慶應高校 4 — 1 桜丘高(B)

## 第三回戦

○ 慶應高校 5 — 0 金沢高(B)  
 ○ 稲田靖 記(2) 与(2) 治(2) 崩上四方  
 ○ 福田大将 送襟絞  
 ○ 檜田靖 記(2) 与(2) 治(2) 合技  
 ○ 佐々木真一郎 初  
 大将 長生駒友井  
 大外刈 横四方  
 先鋒 勝山勝  
 藤田

原山本 Y高(A)

## 第二回戦

## 第五回戦

			慶応高校	
先鋒	○渡辺明治 佐々木一郎 福田治(2)	佐々木真一郎 福田治(2)	3	—
大将	稻田靖 田中 大将	稻田靖 田中 大将	1	日大高(A)
準決勝戦				
先鋒	○渡辺明治 佐々木一郎 福田治(2)	佐々木真一郎 福田治(2)	3	—
大將	稻田靖 田中 大將	稻田靖 田中 大將	1	慶応高校
決勝戦				
先鋒	○渡辺明治 佐々木一郎 福田治(2)	佐々木真一郎 福田治(2)	3	—
大将	稻田靖 田中 大将	稻田靖 田中 大将	0	慶応高校
慶応高校	3	—	0	
3	—	0		
引 分	優勢	崩上四方	引 分	大外返
引 分	崩上四方	横四方	背負投	体落
大将	大将	大将	先鋒	先鋒
小伊藤平内原 林野山	平塚高(A)	金子塚五十嵐	逗子開成高(B)	戸野口松水口田中

## 第一回戦 Bチーム

			慶応高校	
先鋒	○星野照彦 伊藤彦(2)	大将	大部助 本光彌 大助	3
大将	○橋本照彦 阿藤彦(2)	大将	阿部敬助 藤本敬助	—
第二回戦				
先鋒	○阿部大助 本光彌 大助	先鋒	大部助 本光彌 大助	3
大将	○星野照彦 伊藤彦(2)	大将	阿部敬助 藤本敬助	—
第三回戦				
先鋒	○阿部大助 本光彌 大助	先鋒	大部助 本光彌 大助	3
大将	○星野照彦 伊藤彦(2)	大将	阿部敬助 藤本敬助	—
第四回戦				
先鋒	○小倉英夫 星野英夫 伊藤英夫	先鋒	大外刈 崩上四方 大内刈	4
大将	○阿部大助 本光彌 大助	大将	先鋒	—
慶応高校	2	—	0	不戦勝
大内刈	大外返 合技	引分	大外刈 先鋒	0
大内返	合技	大将	大将	大将
2	—	2		
○藤沼田	今井	伊東坂田	小川本	鶴見高(B)
田	井	坂田	川本	金沢高(A)
県立川崎工高				



○ 河 伽 森 後 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩 岩  
 野 端 藍 岡 藤 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 崎 上 上 上 上 濱 濱 濱 濱

大引 分 大引 分 引 分 袋固 跳、腰 送襟絞 合跳 跳大内返 小外刈 合技 大外刈  
 刈 分 分 分 分 固 絞 腰 技 腰 技 腰 技 大返 小返 分 技 大返 分 技 大返 分 技  
 托

○ 武 松 松 西 岩 小 橘 斎 中 古 小 畠 今 小 岡 馬 岩 青 片 遠 内 宇  
 田 尾 波 塚 城 城 林 藤 野 川 寺 山 井 川 野 淀 上 柳 岡 藤 山 神

四十数校百余名の選手が参加して本塾豊谷道場にて行  
 県下高校の個人選手権とも云うべき国体選手予選会が  
 六月二十七日（日）午前九時より  
 于 日吉豊谷道場  
 国体神奈川県高校之部予選（個人戦）  
 大将  
 稲 檜 小 伊 佐 橋 吉 木 阿 平 早 馬 島 池 川 草  
 田 田 山 倉 藤 木 本 坂 下 部 柳 川 目 田 上 上 野  
 引 托 腰 大將 ○ 今 野 今 野

われた。

本塾高校から出場の選手は伊藤照彦(初)が二回戦で惜敗した他は、第一位 小倉英夫(初)、第二位 福田靖与(2)、第三位 檜山治(2)、第四位 稲田詢(2)と一位から四位迄上位を独占した。

この結果、一位から三位迄の三選手が八月に北海道で行われる国体に県代表として出場する。

### 第一回戦

○福	稻	田	靖	与(2)	○福	田	靖	与(2)
○福	伊	檜	田	田	○福	伊	檜	田
○小	倉	伊	田	田	○小	倉	伊	田
○福	田	藤	山	倉	○福	田	藤	山
○福	英	靖	照	英	○福	英	靖	与(2)
○福	夫	詢(2)	彦	治(2)	○福	夫	詢(2)	与(2)
○福	優	與(2)	彦	治(2)	○福	與(2)	彦	治(2)
○福	勢	崩上四方	跳	縱四方	○福	勢	崩上四方	崩上四方
○福	鈴	伊	磯	大	○福	田	大	今
○福	木	藤	部	平	○福	田	平	井(鶴見工)
○福	(三浦高)	(平塚高)	(神)	(神)	○福	田	(神)	(鶴見工)
○福	田	田	大	口(日大高)	○福	田	大	渡部(浅野高)
○福	靖	藤	津(秦野高)	(3)	○福	靖	津(秦野高)	部(浅野高)
○福	与(2)	工	田(川工)		○福	与(2)	依	内(桜ヶ丘高)
○福	与(2)	崩上四方	工		○福	与(2)	田(浅野高)	永(戸塚高)
○福	田	田	工		○福	田	田	井(鶴見工)
○福	靖	藤	工		○福	靖	藤	(鶴見工)
○福	与(2)	崩上四方	工		○福	靖	田	井(鶴見工)

○檜 山 治(2)  
○福 田 靖 与(2)  
○福 田 靖 与(2)

飯村(横須賀高)初  
広瀬(平沼高)初

### 第四回戦(各プロック)

○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				

### 第五回戦(各プロック)

○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				

### 一、二、三位決定戦

○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				
○福 田 靖 与(2)				

飯村(横須賀高)初  
広瀬(平沼高)初  
斎藤(川工)  
石井(法政二高)(2)  
原(平塚高)(2)

○小倉英夫切合技  
檜山治(2)  
本塾対東京大学対抗試合

六月二十九日(月)午後四時より

於東大七德堂道場

七月七日八日に行われる関東関西七大学リーグに東大が出席するので練習試合を申込まれ、初段六名、二段六名、三段三名の対勝負（一本勝負、優勢を認めず）を行つた。東大の気迫はすさまじく本塾をしのぎ、試合は引分となつた。

進級月次試合

普通部・中等部無級の部

引  
分

磯 杉 猪 河 ○ 杉 猪 ○ 稻 鈴 ○ 松  
貝 浦 原 合 浦 原 垣 木 本  
守 滿 良 滿 健 正 嘉  
国 潤 也 紀 潤 也 一 慶 久

六月

八級の部	九級の部
3 2 1 ○	7 6 5 4 ○ 3 2 1
川 古 杉	杉 野 長 長 朝 市 松
上 森 浦	浦 沢 戸 戸 倉 原 本
隆 義	俊 和 興 広 嘉
三 久 潤	潤 雄 夫 二 泰 久
	至 二 男
	介 郎 陽
	直 臣

引分大外刈 橫四方 扎足 引分大外刈 優勢落休 引分優勢

○猪○野○沢○長○朝○市  
原浦沢井戸倉原  
満俊正和興広  
也潤雄明夫二泰

○柳○長○藤○中○朝○三○朝○鉈○稻  
戸原戸原野倉宅  
和孝和忠根一郎  
夫至夫男二郎雄三郎  
昭久

四 五 六 七

1 寺	級 萩	級 萩	4 ○	3 阿	2 清	1 朝	級 飯	3 岩	2 岩	1 級 高	13 ○	12 ○	11 高	10 堀	9 ○	8 堀	7 ○	6 片	5 ○	4 清	永
田 田	原 原	原 部	水 倉		野 崎	崎		橋 橋	橋 橋			岡 岡	岡 岡		水 水	水 水	岡 岡				
繙 太 郎	正 光	正 光	俊 之	英 範	紀 実	佳 夫					真 円		為 義		崇 崇		秀 徹	昭 昭			
引 分 引 分	引 上四方	引 横四方	引 分	優 勢	背 負技	引 分	引 分	橫 四方	絞 技	絞 技	絞 技	橫 四方	引 分	釣 込腰	釣 込腰	合 技	優 勢				

矢沢 賴道 今 城 鈴木 啓伝 ○萩木 啓之 ○阿原光之 ○水部正之 ○森永健次郎 ○飯野英範 ○熊谷之範 ○飯野健次郎 ○堀川一郎 ○小林真浩 ○高橋真一 ○岡田義徳 渡辺真佐男 ○片岡崇 紀久男 徹

## 丙

7	6	5	4	3	2	1	組	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2			
伽	西	○	吳	○	太	1		早	松	松	松	和	和	和	小	村	池	大	川	坪	矢			
藍	田	田		木	田			川	吉	吉	吉	田	田	田	沢	松	上	谷	上	田	沢			
章	悅		四	正	桂			鐵				賢			貞	紀	壯	堅	賴					
高	康		宝	衛	吉			三				弘	史	夫	熙	吉	熙	吉	稳	道				
引	引	釣	引	返	袈	優		引	背	大	優	合	内	出	合	大	引	合	引	引				
分	分	腰	分	技	固	勢		分	負	外	勢	技	股	足	技	外	分	技	分	分				
渡	伽	住	西	大	○	○		阿	早	平	馬	○	○	手	明	○	○	和	小	村	○	大	川	坪
辺	藍	谷	田	谷	木			部	川	柳	目	吉	塚	神	田	沢	松	上	谷	上	田			
章	悅		正	四	正			大	鐵	邦	廣	賢	長	敏	貞	紀	壯	堅						
容	高	誠	康	賢	宝	衛		助	三	生	道	三	男	夫	弘	史	夫	熙	吉	熙	吉	稳		

## 審

## 甲

## 乙

1	查	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	組	7	6	5	4	3	2	1	組		
山	野	浅	竹	岩	草	岩	奥	岩	島	島	島	島	島		森	森	川	秋	坂	堀	渡			
口	沢	川	本	田	田	崎	田	瀬	田	田	田	田	田		田	田	鍋	山	井	内	辺			
慎	真	正	泰	嘉	計	駿	清	安							洋	達	則	光	義					
吉	一	郎	幸	一	行	重	介	一	正						典	郎	照	三	太	容				
引	送	上	四方	引	大	外	十	引	引	扒	引	一本	送	大	外	優	袈	袈	引	優	引			
分	襷	襷	絞	分	字	絞	分	分	腰	分	一分	背	襷	襷	外	落	勢	婆	婆	分	勢	分		
西	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		島	福	○	○	○	○	○	堀		
田	森	野	浅	竹	奥	岩	草	岩	奥	岩	加	武			田	田	田	鍋	山	井	内			
悦	岡	沢	川	本	山	田	野	崎	田	瀬	藤	田			章	隆	洋	達	則	光	義			
康	謙	真	正	泰	清	嘉	計	駿	清	安	順	耕			平	一	典	郎	照	三	太			

2	山	本	光	興	大刈
3	清	水	功	而	○西
4	菅	井	正	道	田
5	工				悦
6	高	橋	恵	史	康
7	石	原	弥	弘	容

引	分	渡	辺	渡	辺	○西
引	分	渡	辺	渡	辺	田
康	容	康	容	康	容	田

### 第三回全日本学生柔道優勝大会

七月四日(日)午前十時より

於 東京都体育馆

満員盛況の中、東京六校、関西三校、九州二校、東

海、上信越、関東、東北、北海道各一校の全国八地域、十六校の参加により、一チーム選手七名、点取試合でトーナメントによりチームの優勝を争つた。出場各校共実力が向上接近し、好試合が見られたが、結果は予想通り明治大学の三連勝に終つた。特筆すべきは予想以上の関西勢の実力の向上でその粘り強い敢闘精神は大いに見るべきものがあった。本塾は一回戦に於て初出場の天理短期大学に惜敗するという残念なる成績に終つたが、同校は初出場ながら関西の第二位で、九州の国体高校選手であつた古賀、川波、脇田等の実力ある選手を擁し、特に

古賀選手は関西個人選手権を持つており、初出場の上に平均に段位が低いものの、段位の高い塾柔道部を相手にし、何とか勝とうという根強い敢闘精神と捨身の攻撃がその試合態度に現れていた。

これに対し本塾選手は各人平素の実力を出し切らず、勝たんとする気力に欠けていた結果が現れたもので、先鋒の長戸は体力のある松尾を体落で技有をとったが、気合のかけ方が足りないで一本にならなかつた。この気合の不足が後で考えると今回の敗戦となつた等惜しまれる。

#### 第一回戦

先鋒 ○ 長 戸 英 夫 (3)

天理短大

彦 (2)

本 塾 2 (18) | 2 (20)

優 勢 先鋒

杉 尾 春

春

先鋒 ○ 高 松 静 男 (3)

引 分 先鋒

米 田 圭 佑 (2)

佑 (2)

先鋒 ○ 山 際 正 静 男 (3)

引 分 先鋒

川 波 圭 佑 (2)

圭 佑 (2)

先鋒 ○ 菅 原 俊 正 男 (3)

引 分 先鋒

栗 古 今 川 田 晴 己 (3)

今 川 田 晴 己 (3)

先鋒 ○ 宮 崎 切 昭 (3)

引 分 先鋒

○ 脇 田 春 寿 (3)

○ 脇 田 春 寿 (3)

先鋒 ○ 熊 切 男 (4)

引 分 先鋒

○ 今 村 春 寿 (3)

今 村 春 寿 (3)

先鋒 ○ 大 将 ○ 熊 切 昭 (4)

引 分 先鋒

○ 古 賀 正 雄 (3)

古 賀 正 雄 (3)

先鋒 ○ 大 将 ○ 熊 切 男 (4)

引 分 先鋒

○ 今 村 春 寿 (3)

今 村 春 寿 (3)

本塾対関西大学対抗試合

七月六日(火)午後三時より

本塾大閑

先鋒 飯塚国基(2)

宮熊萩乾乾高長長吉河河田田鈴山遠堀竹飯  
崎切原松戸戸川合合坂坂木際藤越内塚  
昭正俊靜英文靖一正千忠正國  
剛男夫夫男夫雄之昭男明春義和基  
(4)(4)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(3)(2)(2)  
引引引跳優崩上優引引逆十體巴足引引優内内  
分分分分腰勢四方勢分分字落投払分分勢股股  
方

九 無

進級月次試合

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	級	2	1	級
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	池	○	○	荻
松	松	松	小	野	小	野	野	畠	畠	畠	畠	池	田	田	生
吉	吉	吉	野	吉	地	地	地	中	中	中	中	田	田	田	生

省

—

七月十日（土）於 綱町道場

大將 永 菱 藤 原(3) 山(3) 勝(3)

## 六 七

## 八

3	2	1	級	2	1	級	8	7	6	5	4	3	2	1	級	18	17	16	15	14	13
阿	植	植	○	植	植	○	植	植	阿	小	小	杉	長	沢	○	○	松	磯	猪	野	
部	村	村		村	村		村	村	部	林	林	浦	戸	井		井	井	本	貝	原	沢
俊	剛			剛			健	智	浩		和	正				正	嘉	守	満	俊	
之	太	郎		太	郎		次	応		一	潤	夫	明			明	久	国	也	雄	
引	引	払		横	払		引	大	引	引	合	引	引	引	袈裟固	袈裟固	大	外	落	袈裟固	引
分	分	腰		四	方	腰	分	外	落	分	分	技	分	分	固	固	外	落	分	固	優勢分

清	阿	鉛		萩	朝		古	渡	植	阿	川	小	杉	長	○	家	閑	○	沢	松	磯	猪
水	部	木		野	倉		森	辺	村	部	上	林	浦	戸		中	根	井	本	貝	原	
英	俊	啓		貞			義	紀	健	智	隆	浩		和		智	隆	正	嘉	守	満	
範	之	之		夫	実		久	男	郎	応	三	一	潤	夫		之	範	明	久	国	也	

## 乙

## 丙

9	8	7	6	5	4	3	2	1	組	8	7	6	5	4	3	2	1	組	6	5	4
福	堺	森	森	森	堺	具	石	石	組	鈴	鈴	鈴	大	大	渡	渡	山	組	今	荻	清
田	田	田	田	内		原	原			木	木	木	谷	谷	辺	辺	口		城	原	水
隆	恒		洋	義	四	謙				正	正				慎				正	英	
一	寿		典	太	宝	弘				衛		賢		溶	吉				伝	光	範
優	上	引	優	優	引	送	撲	合	引	引	大	内	体	引	背	跳	釣	引	払	優	勢
勢	方	分	勢	勢	分	絞	技	分		分	刈	落	分	負	投	腰	込	腰	腰	勢	分

○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
後	住	後	本	友	森	堺	具	堺		住	菅	工	鈴	野	大	西	渡	○	奥	今	荻	
藤	谷	藤	重	田	田	内				谷	井		木	村	谷	田	辺		野	城	原	
一	一	榮	城	洋	義	四	恒			正	恵	正	幸	正	悦				燕	正		
太	誠	太	一	郎	典	太	宝	寿		誠	道	史	衛	司	賢	康	溶		児	伝	光	

四級 二級										甲									
9	8	7	6	5	4	3	2	1	○	9	8	7	6	5	4	3	2	1	組
手 岩	岩	岩	岩	岩	岩	寺	寺	寺	奥	奥	草	草	磯	加	島	島	島	島	川 后
塚 崎	崎	瀬	瀬	上	上	田	田	田	田	田	野	野	沼	藤	田	田	田	田	鍋 藤
長 駿	安 宽	寛	縉	太	郎					清	計	輝	順			章			達 一
男 介	正 治									一	重	男	介			平			朗 太
崩上四方	大外返	崩上四方	合 技	優 勢	背 負	投 崩	裂 妾	引 分		大 外	優 勢	背 負	投 内	大 外	引 分	合 体			内 引 分
○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○		竹 河	奥	野	草	磯	加	浅	奥	○ ○	秋 川
馬 手 森 岩 岩 矢 岩 矢	目 塚 岡 崎 田 瀬 沢 上 沢	広 長 謙 駿 嘉 安 寛 賴 道 男 二 介 行 正 道 治 道	本 端 田 沢 沢 野 野 沼 沼 藤 沼 加 藤 沢 浅 川 山 山 鍋 则	泰 孝 清 真 一 郎 重 男 介 幸 明	一 充 一 郎 重 男 介 幸 明														山 照 朗

審																				
第三回全国高等学校柔道大会第二位																				
後、	出場校各県代表四十七校、	西	3	2	1	西	西	西	西	○	4	3	2	1	查	18	17	16	15	14
千葉県代表安房一高との決勝戦では一対一の同点の	して出場し、決勝戦に進出した。	田	田	田	田	田	田	田	田	○	平	早	松	川	小	池	大	馬	13	
代表戦に持ち込み、本塾小倉英夫（三年、二段）は	於	栗	○	○	○	○	○	○	○	○	平	早	松	川	大	馬	12	11	10	
	日光市公会堂	天	海	田	智	功	雄	河	合	岡	柳	吉	上	沢	上	谷	目	廣	泰	
		粟	田	智	功	雄		河	健	本	川	吉	上	沢	上	谷	壯	一	孝	
		河	田	功	雄			合	治	十	柳	吉	上	沢	松	上	谷	熙	明	
		岡	健	助	生	三	三	吉	史	右	邦	鐵	賢	堅	貞	紀	民	壯	則	
		本	治	三	吉	三	三	吉	史	衛	邦	鐵	賢	堅	貞	史	一	朗	照	
		十	助	生	吉	三	吉	吉	史	門	大	邦	鐵	賢	堅	吉	史	熙	朗	
		右	三	吉	吉	三	吉	吉	史	治	助	生	三	吉	吉	史	一	郎	照	
		衛	吉	吉	吉	吉	吉	吉	史	門	大	邦	鐵	賢	堅	吉	史	熙	朗	

安房、高尾に惜しくも敗れた。

なお、本塾高校は三年連続出場により表彰を受け、また優秀技術選手に、渡辺明治(2)、小倉英夫(2)が選ばれた。

### 三校リーグ戦

慶應高校

4 — 0

安来校(島根県)

先鋒 ○ 小倉 英夫(2) 崩上四方先鋒 小藤

○ 渡辺 明治(2) 優勢

檜山 治(2) 小笠

○ 稲田 靖 詶(2) 横四方

大将 ○ 稲田 靖(2) 引分 大将

○ 稲田 靖(2) 河津 草間

慶應高校

2 — 2

大阪工大高(大阪)

先鋒 ○ 小倉 英夫(2) 崩上四方先鋒 小藤

○ 渡辺 明治(2) 優勢

檜山 治(2) 小笠

○ 稲田 靖(2) 横四方

大将 ○ 稲田 靖(2) 引分 大将

○ 稲田 靖(2) 河津 草間

先鋒 ○ 小倉 英夫(2) 崩上四方先鋒 小藤

○ 渡辺 明治(2) 優勢

檜山 治(2) 小笠

○ 稲田 靖(2) 横四方

大将 ○ 稲田 靖(2) 引分 大将

○ 稲田 靖(2) 河津 草間

トーナメント第二回戦		慶應高校		慶應高校	
大将 ○ 稲田 靖(2)	○ 渡辺 明治(2)	先鋒 ○ 小倉 英夫(2)	崩上四方先鋒 小藤	大将 ○ 稲田 靖(2)	○ 渡辺 明治(2)
○ 檜山 治(2)	○ 檜山 治(2)	○ 檜山 治(2)	○ 檜山 治(2)	○ 檜山 治(2)	○ 檜山 治(2)

トーナメント準決勝戦		東海高(愛知)		北海高(北海道)	
3	— 1	3	— 0	3	— 1
大将 ○ 稲田 靖(2)	○ 渡辺 明治(2)	先鋒 ○ 小倉 英夫(2)	崩上四方先鋒 小藤	大将 ○ 谷 谷(2)	○ 浅野 藤(2)

昭和29年度  
591

得る。

トーナメント第一回戦

本試合は引分であったが工大高が安来高との試合で3  
10の為、勝点差で本塾が決勝トーナメント出場資格を得る。

## 決勝戦

慶應高校

1 — 1 安房一高(千葉)

先鋒 小倉 渡辺  
大将 稲田 檜山

引分 先鋒 飯田

引分 上田

送襟絞

判定 菅

○高尾

引分 大将

佐久間

大外刈 ○高尾

## 普通部山中合宿

八月十六日～二十一日

第一回神奈川県中学校柔道大会を控えての山中合宿には二十四名が参加し、昨年の普通部・中等部合わせて八名に比べ、四十畳の道場がすっかり手狭になつた。朝岡先生、清水師範、先輩の方々、蜷川監督以下多数の大学生の指導の下、次の日課で元気に研究、練習を行い最終日の紅白試合で無事合宿を終了した。

日課

六時半起床 七時かけ足

八時 朝食 九時～十時 勉強

十時～十一時半 午前稽古 十二時昼食

三時迄

自

由行動 三時半～四時半午後稽古  
六時 夜食 九時迄 自由行動  
十時 消燈

## 紅白試合

先鋒 ○島 島田

○砂 川田

○野 沢田

○野 沢川

○砂 川

○野 沢

健次郎

和夫

智応

義久

紀久男

俊雄

慶介

大内返

崩上四方

大外刈

引分

優勢

横四方

袈裟固

返技

引分

袈裟固

横四方

大外卷込

引分

後袈裟

大内返

崩上四方

大外刈

引分

大将

○植

米

○清

小

○閔

松

○松

○杉

○川

井

○銀

中

○鈴

白

根二郎

中野

木

根一郎

根二郎

根一郎

根二郎

根一郎

根二郎

根一郎

根二郎

根一郎

根二郎

根一郎

根二郎

剛太郎

眞佐雄

浩一範

省三

潤三

隆光

根一郎

吉

吉

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

大将 加藤 昇 引分

植村

**第一回神奈川県中学校柔道大会優勝(普通部)**

八月二十九日 於 横浜市平和球場

山中合宿等、部員一同の団結・努力が実を結び普通部は第一回大会に榮えの優勝を飾った。

**第一回戦**

**普通部**

5 — 0

先鋒○植	村	健次郎
○奥	野	燕児
小	林	浩一
○加	藤	智応
大将○阿	部	大外刈
横四方	横四方	松鈎込足
巴投	崩上四方	
大将	大将	

南足柄中

先鋒○植	村(健)	5
○奥	野	—
小	林	0
○加	藤	
大将○阿	部	
横四方	横四方	
巴投	大外落	
大将	先鋒	
網	井	逗子開成
井	若	
原	中	
倉	林	
倉	高	
横四方	横四方	
大将	横四方	

**第三回戦**

**普通部**

4 — 1 不入斗

先鋒○植  
村(健)

横四方  
巴投

優勢

大腰

横四方  
大腰  
先鋒○野

跳腰

大腰

馬堀中

**第四回戦**

**普通部**

2 — 2 馬堀中

先鋒  
植  
村(健)

崩裂姿

優勢

先鋒○小川

崩裂姿

引分

佐藤東

崩裂姿

優勢

鈴木木

引分

大将前田

伊東

矢込

**決勝戦**

**普通部**

3 — 1 御成中

先鋒○植  
村(健)

崩裂姿

引分

合技

先鋒

岡田

御成中

先鋒○植  
村(健)

崩裂姿

内股

引分

吉田

平崎

田中

## 中等部山中合宿

月日 不 明

中等部柔道部は夏休みに一週間の山中合宿を行つた。

参加部員は約三十名にのぼつた。

なお本年、中等部柔道部部長に前部長横川克男先生に代つて清崎敏郎先生が就任されている。

## 夏季東北・信越遠征試合（大学）

八月三十一日～九月九日

戦後初の本格的遠征を東北・信越地方に行う。長野、  
長岡、新潟、秋田、弘前、仙台、山形、福島と十日間に  
八試合を、旅の疲労と睡眠不足にもげず、気魄で各県  
の精銳と対戦した。成績は強豪全宮城に敗れた他は六勝  
一引分であった。

## 対北信連盟

八月三十一日（火）午後二時より

於 長野県警察学校道場

○ 横 倉 永 一 初 縱 四 方	先 鋒 友 田 昌 利 刻 背 負 投 扱 卷 入	藤 間 哲 也 刻 ○ 久 保 北 信 連 盟	本 勢
-------------------	---------------------------	-------------------------	-----

遠 堀 ○	飯 ○	飯 ○	飯 ○	田 蟻 河 河 ○	金 水 ○	水 ○	高 久 広 ○	久 頭 伊 小 横
藤 越 ○	越 塚	塚 塚	塚 塚	中 川 内 内	成 藤 藤 垣 木	瀬 瀬 保	山 東 高 倉	
千 忠		国 浩 謙		禱 三		久 雅 統 弘	登 志	
春 (3) 義 (2)		基 (2) 司 (2)	一 (2)	清 (2) 微 (2)	郎 (2)	誠 (2) 晃 (2)	也 (2) 逆 (2)	
引 分	大 内 刈	引 分	大 外 落	引 分	崩 裂 姿	外 反	引 分	
	引 分	扒 腰	扒 腰	跳 腰	小 外 刈	引 分	引 分	
浅 遊 近 武 原 山 工 依 依 ○	宮 田 田 ○	田 田 ○	儀 儀 ○	儀 儀 ○	鹽 小 山 和 大			
沼 坐 藤 藤 田 岸 沼 田 田 ○	崎 中 中 中 中 中	藤 藤 藤 藤 藤 泽 林 (甲)	逸 逸 逸 逸 逸 逸					

先鋒		大將	對中越選抜軍														
友	藤		宮	乾	萩	田	吉	竹	高	高	河	長	鈴	山	山	○	○
田	間	崎	原	坂	川	田	松	松	合	戸	戸	木	際	際	際	○	○
初	切	塾	俊	正	文		静	靖	英	一			正				
		11	剛	夫	男	昭	雄	博	男	之	夫	男				明	(3)
大内	引		(4)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)					
内返	分		逆	十	字	引	足	内	引	大	外	落	引	引	崩	内	内
			引	分	分	分	払	股	分	外	落	分	分	上	股	股	股
	10	於	大	將											四方	大	内
先鋒	杉	長岡高校講堂	唐	滝	大	大	大	西	伯	柳	原	伊	伊	伊	米	宮	宮
垣	垣	長谷川(昌)初	木	木	島	島	島	耆	原	澤	藤	藤	藤	藤	山	沢	島

○ ○ ○ ○ ○ ○ 長 河 竹 遠 鈴 堀 飯 田 河 水 金 広 伊 蟻 高 久 久 頭 横 小  
 吉 山 田 長 河 竹 遠 鈴 堀 飯 田 河 水 金 広 伊 蟻 高 久 久 頭 横 小  
 川 際 坂 戸 合 田 藤 木 越 塚 中 内 藤 成 瀬 東 川 垣 木 保 山 倉 高 初  
 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

上 大 外 方 上 方 引 縦 方 引 背 負 投 引 分 大 内 变 背 負 投 大 内 变 橫 方 引 跳 腰 優 勢 引 分 体 落 内 股 返 優 勢 大 外 变 跳 腰  
 跳 腰

長 藤 星 反 太 杉 松 新 中 桜 梨 渡 佐 浅 宮 田 高 矢 関 森 小 多 須  
 谷 川 田 野 町 田 野 本 保 野 井 本 辺 藤 香 島 口 橋 島 井 林 田 初 藤 初  
 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

○高  
萩原(3)  
松(3)

大將  
○宮崎(4)

對全新潟

九月二日(木)午後七時より

於新潟市公会堂

先鋒  
本  
高倉  
登永塾

一郎  
(2) 微  
(2) 晃  
(2) 誠  
(2) 也  
(2)

義  
(2) 一人  
(2) 也  
(2) 利  
(2) 勅  
(2)

蟋水金高久廣久久頭伊藤友小横  
川藤成垣木瀬保保山東間田高倉

謙三禱久雅統弘哲昌登永塾

引  
分  
分  
分  
分  
方

先鋒

崩上四方  
送標絞  
大外刈  
横四方

大將  
小  
鷺

林(久)竹(3)  
頭(3)

大將  
小  
鷺

笠酒中中野本高高高高高高佐々木  
原井野野口多橋橋橋橋橋橋庄  
一喜代頭良  
夫治榮競

三喜男  
(2) 五  
(2) 勅

○○○乾田長吉竹高萩長河鈴山遠堀飯田河  
切切切坂戸川田松原戸合木際藤藤越越塚中内

昭俊文静正英靖一正千忠国浩

男夫昭雄博男夫夫之男明春義基司清

崩体横跳優引引横送内引引内引引小外返  
上落四方腰勢分分標絞股分分股分分内股  
西方

榎鈴森森渡渡諸倉倉長渡梨本阿阿佐々木  
並木岡岡辺辺原島島島川辺本間部部部

昭宏重肩典喜清力庄一作貞栄

忠寧持文夫清吾彦三郎一昭雄一郎馨治吉吉

先鋒	本	對全秋田	大將○宮熊○ 熊切切
○ 飯 広 高 伊 久 久 橫 保 保 倉	○ 伊 久 久 橫 保 保 倉	○ 宮 熊○ 熊切切	○ 宮 熊○ 熊切切
鰐 川 塚 塚 瀬 垣 東 木 木 木 保 保 倉	高 垣 東 木 木 木 保 保 倉	崎 崎 崎 崎 切 切	崎 崎 崎 崎 切 切
(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)	(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)
内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 ○佐々木 鎌 鈴 鈴 細 細 小 后 藤 藤	内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 ○佐々木 鎌 鈴 鈴 細 細 小 后 藤 藤	先鋒○後藤 全秋田	引優勢大外落 内股透 大將
内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 ○佐々木 田 木 木 部 部 林 林 林 林	内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 内股腰透分払横四方合技崩上四方大外刈 ○佐々木 田 木 木 部 部 林 林 林 林	于秋田市武德館	引分勢大落 内股透 左四郎哲孝庄雄一郎 内(4) 衛弥一(3) 二(3) 三(3)
九月四日(土)午後一時より	塾	剛(4)	

○吉萩萩萩○鈴高高○竹竹遠河○長山堀○水田河○  
 川原原原原木松松田田藤合合戸戸際越越藤藤藤中内(2)

崩上西方足扒小内刈崩裂婆引分引裏業引背負投逆十字崩上西方背負投大外刈大内刈合技横四方引分内股返崩裂婆

○川川早成高二鎌三佐小○○○○○○薄佐佐金田○佐々木  
 原原川田橋木田浦木林林林原原小山田薄田藤藤平沼沼木

	先鋒		大將	
堀	○飯田河口水蟾○広久久伊高横倉	宮熊崎(3)	○田坂(3)	吉川
越	塚中内藤川瀬(2)保木東垣(2)	(4)		
(2)	(2)(2)(2)(2)(2)(2)	(4)		
	本塾			
		九月五日(日)午後二時より		
引	横引痛引袈裟固小内卷込	10   5	引合技	引崩上四方
分	四方分分分送襟綬			
		引分		
	背負投			
	支釣足			
		先鋒		
			大將○	
森	村工赤奈川野○久保田○高橋○小枝		永松	永斎宮
上	藤石良口宮島		沢	沢岡藤本
藤				
		弘前大學道場		

	先鋒		大將	
金	○稻穀横小本	○乾(3)	○吉原(3)	○竹山(3)○遠藤(3)○鈴木(3)
成	田田倉倉	高松(3)	萩原(3)	○長戸(3)○河合(3)
(2)	(2)(2)	○川原(3)	○坂(3)	○山(3)
	本塾	○界(3)	○戸(3)	○竹(3)○遠藤(3)○鈴木(3)
		○戸(3)	○合(3)	○山(3)
引	引大外返内股	引崩上四方	引内股	引大外落
分	分返股		分	分
	先鋒		大將	
熊	○須塚全宮城		○吹木野川沢井田村沢	○黑滝庭(勝)
大	須塚全宮城		○口口	○清今石種市
谷	森田本宮城			○野庭(衝)
		仙台市労働会館		

○ 長 河 鈴 遠 堀 飯 飯 田 田 河 河 蟻 水 渡 久 広 広 久 檜 頭 高  
 戸 戸 合 木 藤 越 塚 塚 中 中 内 内 川 藤 辺 木 瀬 瀬 保 山 山 垣  
 (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

大 小 内 内 引 引 優 背 背 背 大 引 小 扌 引 引 大 外 裂 小 大 外 足 跳  
 外 刃 内 股 股 分 分 勢 負 負 負 内 刃 分 内 卷 伸 分 外 返 婆 固 内 卷 伸 外 刃 外 扌 腹

○ 勝 渡 ○ ○ 渡 渡 菊 鹿 鹿 岡 春 春 ○ 須 小 雁 雁 大 庄 庄 庄 神 神 神 神 神  
 又 边 边 边 地 野 野 田 田 田 藤 野 部 部 泉 子 子 永 永 永 永 永

## 大将

○ 宮 熊 熊 荻 田 乾 高 吉 吉 竹 竹 山 山  
 崎 切 切 原 坂 松 川 川 田 田 際 際  
 (4) (4) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3)

引 内 鈎 大 引 扌 跳 引 優 巴 内 橫 体  
 分 股 足 达 外 落 分 腰 腰 分 勢 投 股 落

## 大将

多 ド 宮 佐 三 鶩 遠 菊 照 照 ○ ○ 伊 伊 柴 桜 桜 佐 佐 勝  
 ジナ ジナ 々 々 佐 佐 伊 伊 柴 桜 桜 佐 佐 勝  
 田 ヨル 本 木 浦 谷 藤 田 井 井 木 木 勢 勢 勢 勢 山 井 井 藤 藤 又  
 ソド ソド ソン ソン



大將宮熊乾(3)竹田坂(3)  
對全福島崎切(4)田坂(3)

先鋒○横  
本塾

○河高田田○飯廣藤小友○友○横  
内垣中中中(2)塚瀬(2)間(2)高(2)田田倉  
(2)(2)切(2)切(2)倉(2)

送襷引大内刈襷腰引引内股  
襷固分固腰分分外返大外返  
襷固引分股大外返大外返  
襷固引分股大外返大外返

○河小紺菊菊吉佐○○○渡○菅  
内内野野田田川藤藤藤辺辺野  
(2)(2)田(2)川(2)藤(2)藤(2)辺(2)野(2)

九月九日(木)午後二時より  
於福島縣警察學校道場

吉萩○○長長長山山山遠遠遠水堀蟻○久金伊河○  
川原原原戸戸戸戸際際際藤藤藤藤越川川保成東内内  
(3)(3)(3)(3)(3)(3)藤(2)藤(2)藤(2)越(2)川(2)川(2)保(2)成(2)東(2)内(2)

引支小内外刈引大外刈横四方  
分釣足内刈外刈内返内外刈送足  
腰襷腰固襷腰固跳腰跳腰横四方  
引分固腰固腰固跳腰跳腰縦四方  
大外刈

○東金鈴小日鈴永永丹宮宮高大○○○佐佐日万部古  
城城田木林黒木山山治島島野楓楓楓楓藤藤藤藤  
東(2)金(2)鈴(2)小(2)日(2)鈴(2)永(2)永(2)丹(2)宮(2)宮(2)高(2)大(2)大(2)大(2)佐(2)佐(2)日(2)万(2)部(2)古(2)

無級の部

大将	宮熊乾	竹田鈴	河合松	○高松(3)
(3)	(4)	(3)	(3)	
崎切		坂木	合	河合(3)
(4)		(3)		

## 進級月次試合

9	8	7	6	5	4	3	2	1
○		○		○		○		
西	西	中	武	沢	沢	細	早	早
村	村	川	田	田	田	谷	田	田
武	正	万	勇					
彦	輝	彦	治	郎	旭			

引	釣	崩	引	小	崩	引	合	引
分	込	上	分	内	袈裟	分	技	分
腰	腰	四方			婆			

○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮	斎	西	中	武	滝	沢	細	杉
本	藤	村	川	田	沢	田	谷	浦
定	武	正	万	庸	勇	誠		
義	温	彦	輝	彦	行	郎	旭	俊

引	送	引	払	引	横	引	外	大
分	襟絞	分	腰	分	四方	送襟絞	返	外返

大將	○	○	○	○	○	○	○	○
山	山	高	佐	久	間	佐	久	三
田	田	橋	久	間		久	間	浦

九月二十二日

五級以上	七・六級							
15 14 13 12 11 10 9 8 7	14 13 12 11 10							
○	○	○	○	○	○	○	○	○
関塚川 岩岩池池寺上	植植岩沢飯	吉高勝宮						
田上上上上上田原	村村村崎野	田井田田本						
栄喜堅 寛壯繙惟	剛太郎 健次郎佳芳紀	晴康祥定						
次郎幸吉 治一郎太郎道	太郎 健次郎夫博夫	彦夫三義						

引	跳	引	引	足	引	上	引	優
分	卷	分	分	扒	分	四方	分	勢
達								

払	横	優	崩	足	崩	大	引	大
卷	四方	勢	袈裟婆	扒	袈裟婆	内返	分	外刈
達								

○	○	○	○	○	○	○	○	○
阿	関	塚	川	大	岩	村	池	寺
部	田	上	谷	上	松	上	田	立
大	栄	喜	堅	寛	紀	壮	繙	剛
次	助	幸	吉	熙	民	太	太	太
郎								

頭	植	大	植	岩	沢	永	吉	勝
山村	熊	村	崎			井	井	田
立	剛	國	健	佳	芳	利	康	祥
國太郎	太郎	次郎	之	夫	博	雄	彦	徹
之								

丙組・乙組・甲組

## 審

秋季 大会	7	6	5	4	3	2	○	1	○	查	9	8	7	6	○	渡	5	4	3	2	1
	渡	金	梅	新	永	林	○	林	○	奥	加	藤	渡	川	本	石	山	口	工	山	
	辺	光	田	井	田					山	藤	辺	鍋	重	原	口	慎	吉	恵史郎		
	紀	靖	武	一	郎	晴				清	順	達	榮	達	一						
	勉	介	弘	之	夫	明				介	溶	一	郎								

引  
崩上四方  
分  
巴  
投  
優勢  
分  
引  
勢  
私  
腰  
裂姿固  
脇固

勝	渡	金	梅	新	鷺	西	竹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
本	渡	金	梅	新	鷺	西	竹	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
辺	本	渡	金	梅	新	鷺	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
光	本	辺	光	田	井	島	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
杉	杉	紀	紀	靖	谷		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
雄	雄	勉	勉	介	弘	之	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大	大	雄	雄	介	弘	之	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉	倉	田	田	永	永	辺	山	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

大に挙行された。  
(試合記録不明)

## 第二回関東高等学校柔道大会

十月二十四日(日)午前九時より  
於 群馬県伊勢崎市立北小学校体育館

本塾高校は七月の全国大会決勝戦で惜敗した安房一高  
を決勝戦に破り、堂々優勝を遂げた。

## 第一回戦

慶應高校 4 - 0 佐倉高

先鋒○檜山 治(2) 釣込腰 先鋒

○豊渡辺明治(2) 引分

○福永田勝(2) 横四方

○小倉英夫与(2) 鮎込腰 優勢

大将○小倉英夫(2) 大将

## 第二回戦

5 - 0

先鋒○檜山 崩上四方先鋒

○豊渡辺山 大外刈

○福永田横四方

○小倉英夫背負投

大将

中石内稻野館

沢塚田辺

下妻高

秋季紅白試合は百十一名の参加者に依り久し振りに盛

十月二十四日 於 綱町道場

## 第三回戦

	先鋒 檜山	先鋒 檜山	3 — 0
大將 ○ 小倉	○ 渡辺	○ 渡辺	横四方
○ 福田	○ 豊永	○ 豊永	横四方
○ 福田	○ 福田	○ 福田	引分
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山
大將 ○ 小倉	○ 渡辺	○ 渡辺	大將 ○ 小倉
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山
大將 ○ 小倉	○ 渡辺	○ 渡辺	大將 ○ 小倉
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山	先鋒 檜山
大將 ○ 小倉	○ 渡辺	○ 渡辺	大將 ○ 小倉
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
○ 福田	○ 福田	○ 福田	○ 福田
慶應高校	慶應高校	慶應高校	慶應高校
3 — 1	3 — 2	3 — 2	3 — 0
優勢 優勢 引分 先鋒	釣込腰 橫四方 橫四方 内股	釣込腰 橫四方 橫四方 先鋒	釣込腰 大將
大外落 大外落 大外落 先鋒	大将 ○ 大坂 坂場	大将 ○ 大坂 坂場	井口
佐久間 佐久間 上田 安房一高	内股 尾崎 木崎	植木 嶺崎	新井 石井
			明治高
			明治高

## 本塾対横浜市警察対抗試合

十一月四日(木)午後三時より

於 横浜市警察道場

早慶戦を控えて警察としては強豪揃いの横浜市警察と練習試合を行う。

金水久飯	飯田伊廣	関鈴長沼	佐峰岸弘	佐木正道	夫彻
成藤保塚	塚塚中東	瀬瀬木			
禱三雅	国浩弘	久俊澄	佐木正道	佐峰岸弘	夫彻
微郎義	基司人(2)	也介(2)	夫(2)	徹	引分
(2)(2)	(2)(2)	(2)(2)	(2)	(2)	(2)
払優勢	大外刈	内股透	横掛	大外落	引分
腰	腰	透	掛	落	分
○ 漆	○ 漆	○ 漆	○ 葵	○ 葵	体落
○ 漆	○ 漆	○ 漆	○ 葵	○ 葵	先鋒○鯵坂
原原原原	原原原(2)	須田切	諷訪間切	渡辺切	送足払
原原原原	原原原(2)	須田切	諷訪間切	渡辺切	腰
		木切	葉切	千葉切	
			地切	地切	

大將

宮	熊	乾	萩	萩	吉	高	鈴	○	長	○	長	○	長	山	○	山	○	遠	成	○	堀	竹
崎	切			原	原	川	松	木	木	戸	戸	戸	際	崎	際	藤	毛	毛	越	内		
昭	俊			正	文	静			一			英		正	千		韶	忠	正			
剛	男	夫			夫	雄	男		男			夫		明	春		夫	義	和			
(4)	(4)	(3)			(3)	(3)	(3)		(3)			(3)		(3)	(3)		(3)	(3)	(2)			

釣込腰 釣込腰 分 分 優勢 分 分 引 分 引 分  
引 分 優勢 分 分 腰 分 引 分 引 分  
引 分 優勢 分 分 腰 分 引 分 引 分  
引 分 優勢 分 分 腰 分 引 分 引 分  
引 分 優勢 分 分 腰 分 引 分 引 分  
大外刈 内股返 大外刈 内股返 大外刈 内股返

大將

本塾対日本鋼管対抗試合

十一月八日(月)午後三時より

於日本鋼管健保體育館

三連敗をして、社会人柔道界の雄日本鋼管に対し、前七名は絶対引分け等々の細い作戦をたてて対戦し、作戦通り勝利を収めた。夏季遠征以来チームが粘り強くなり、早慶戦に期待が持たれる。

本  
塾

先  
錄

序  
弘 熟

弘

先鋒  
塚原初  
日本鋼管

高久水庄飯飯蟻田伊金河関峰  
垣保藤瀬塚塚川中東成内 岸  
雅三久 国謙浩 弘禧 俊弘  
晃義郎也 基一司人 徵清介夫  
(2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)  
内引引引引 翳婆引引引引 大外返 優引  
股分分分分 固分分分分 勢分

○ 大工山山北塚大土佐高高高  
橋藤下下田高戸藤橋橋橋原  
(2) (2) (2) (2) (初) (初) (初) (初)

第六回全日本東西学生柔道対抗試合並に  
全日本学生柔道選手権大会

十一月十三・十四日 於 大阪府立体育会館  
本塾より宮崎剛四段、熊切昭男四段、長戸英夫三段、  
山際正明三段が選ばれ参加した。本塾選手の成績は次の  
通り。

東西対抗

東

西

3鋒○山際(3)(慶大)	優勢 次鋒 米田(天理短)
7鋒 長戸(3)(慶大)	背負投
22鋒 熊切(4)(慶大)	釣込腰
25鋒 ○宮崎(4)(慶大)	小外刈
○宮崎(4)(慶大)	崩上四方26鋒 小田部(西南大)
宮崎(4)(慶大)	7鋒 ○坂田(3)(関大)
宮崎(4)(慶大)	23鋒 ○浜地(3)(九関大)
宮崎(4)(慶大)	副将
宮崎(4)(慶大)	菱山(3)(関大)

東軍不戦3人を残し優勝。なお本塾宮崎剛四段は優秀  
選手に選ばれた。

東西対抗での本塾選手の戦い振りを雑誌「柔道」(村

田恒雄氏記)より拾えれば次の通り。

○山際 正明(3)(本塾) 優勢 米田 圭佑(2)(天理短)

「二十二貫の山際左内股、右跳腰、大内刈と東軍挽回を

大將

宮	熊	遠	堀	吉	田	鈴	高	萩	山	山	乾	長	長	長	長	成
崎	切	藤	越	川	坂	木	松	原	際	際	際	戸	戸	戸	戸	毛
剛	男	春	義	雄	昭	男	男	夫				正	俊			韶
(4)	(4)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)				明	夫			夫
(3)												(3)	(3)			(3)

引 分 小外掛 合技 引 分 足払 崩横四方  
引 分 分 分 分 分 分 合技 技 分 扯 外卷込  
大將

河	野	吉	川	菊	江	坂	谷	本	本	佐	西	村	多	大	橋
副	口	川	村	野	森	本	本	口	所	藤	村	清	水	田	大
(5)	(5)	(5)	(5)	(5)	(4)	(3)	(3)	(3)	所	(3)	(2)	(2)	(2)	(2)	

期して闘志燃やせば米田よく左釣込大外大内と敏捷に攻め返し引分けかと思われたが、山際の左内股「技有」。

時間三秒前の技。」

山際 正明(3)(本塾) 背負投 ○後藤 高明(2)(阪 大)

「山際大内刈で果敢に攻めるも後藤外して背負に入るも場外、それではと左内股次いで右大内、体落に攻め場内すれすれのところ一本背負綺麗に決る。」

長戸 英夫(3)(本塾) 釣込腰 ○坂田 信夫(3)(関 大)

「坂田、組むや左の釣込腰一発、油断は禁物。」

熊切 昭男(4)(本塾) 小外刈 ○浜地 直寿(3)(九 大)

「組んで機を見合うこと数分、浜地やつ！ とばかりに小外刈、コーナーに押し刈れば一瞬に決る。」

○宮崎 剛(4)(本塾) 崩上四方 小田部英雄(3)(西南大)

「機を見合うこと暫し宮崎、小田部の腰を落して構えた肩越しに帶をとつて返して寝技に引込めば崩上四方がつちり決り両軍通じて初の寝技一本。」

○宮崎 剛(4)(本塾) 優勢 木郷 光保(3)(同 大)

「宮崎闘志満々、攻め続けるが重量の本郷寄せつけず宮崎それではとばかり組みばなを支釣込足に払えば「技有」。

宮崎 剛(4)(本塾) 引 分

菱山清一郎(3)(関 大)

「西軍副将菱山、大外大内に攻めるが宮崎堂々8分を戦い抜いて引分。」

選手権大会

第一回戦 ○熊切 昭男(4)(本塾) 優勢 飯尾 良宏(3)(関 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 横四方 西良 正也(3)(同 大)

○山際 正明(3)(本塾) 優勢 ○天野 邦男(2)(愛 大)

○長戸 英夫(3)(本塾) 優勢 ○今村 春雄(3)(天理短)

○宮崎 剛(4)(本塾) 抽選 菱山清一郎(3)(関 大)

○山際 正明(3)(本塾) 横四方 西良 正也(3)(同 大)

○長戸 英夫(3)(本塾) 優勢 ○天野 邦男(2)(愛 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 抽選 菱山清一郎(3)(関 大)

○山際 正明(3)(本塾) 横四方 西良 正也(3)(同 大)

○長戸 英夫(3)(本塾) 優勢 ○天野 邦男(2)(愛 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 抽選 菱山清一郎(3)(関 大)

○山際 正明(3)(本塾) 横四方 西良 正也(3)(同 大)

○長戸 英夫(3)(本塾) 優勢 ○天野 邦男(2)(愛 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 抽選 菱山清一郎(3)(関 大)

○山際 正明(3)(本塾) 横四方 西良 正也(3)(同 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 内股 ○渡辺 政雄(4)(明 大)

○宮崎 剛(4)(本塾) 内股 ○渡辺 政雄(4)(明 大)

「宮崎の闘志と渡辺の俊敏好取組の一つである。渡辺出鼻に思い切って入った右内股に宮崎ちょっと横加減であ

つたが鮮かに極る。

進級月次試合

(雑誌「柔道」(伊藤徳治記)より)

十一月二十日（土）

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 級  
 渡 渡 清 沢 堀 堀 永 清 清 清 長 関 関 関 関 関 野 松 杉 沢 林 林

辺辺水 岡水水戸根根根根根沢原浦井

正晴 夫潤明 次雄範 俊軍 隆和 秀為 芳博 佐真 久紀 男久 紀

○ 岩朝渡清沢福堀永川田清長下市田沢閑野松杉  
崎倉辺水室岡上中水戸村原北井根沢原浦  
佳興紀眞芳郷為秀隆直和宏正隆俊軍  
夫二真佐男博好義昭三臣徽夫裕泰坦明篤雄潤  
次中野居根一郎靖之

審

丙

○西田悦康○吳堀加川河後森○浅奥石鈴友住渡本堀王太野村  
田内藤鍋端藤田川山原木田谷辺重田惠史郎桂吉幸司  
四義太郎順達孝一洋正清康正城太郎榮恒寿司  
宝介朗尤太典幸明弘衡誠容



		第一回戦		第二回戦		第三回戦		第四回戦		第五回戦		第六回戦	
		一年Bチーム		慶応高校									
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊	渡	檜	慶	豊	渡	檜	慶	豊	渡	檜	慶	豊	渡
永	辺	山	応	永	辺	山	応	永	辺	山	応	永	辺
返	大	勝	3	返	大	勝	3	返	大	勝	3	返	大
技	外	固	—	技	外	固	—	技	外	固	—	技	外
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
阿	白	小	平	三	露	勝	吉	染	佐	染	飯	逗	子開成A
部	根	松	沼	橋	木	俣	田	谷	藤	谷	島	子開成	A
高	高	高	高	高	高	高	高	谷	高	高	島	子開成	A

		第一回戦		第二回戦		第三回戦		第四回戦		第五回戦		第六回戦	
		一年Bチーム		慶応高校		慶応高校		慶応高校		慶応高校		慶応高校	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
豊	渡	檜	慶	豊	渡	檜	慶	豊	渡	檜	慶	豊	渡
永	辺	山	応	永	辺	山	応	永	辺	山	応	永	辺
不	内	股	決勝戦	不	内	股	決勝戦	不	内	股	決勝戦	不	内
戦	縦	四方	—	戦	縦	四方	—	戦	縦	四方	—	戦	縦
1	1	1	2	1	1	2	2	1	1	2	1	1	2
○	金	和	矢	戸	野	田	日	藤	小	猪	高	横須賀A	横須賀A
子	田	島	逗子開成B	田	口	中	大高A	沢高A	川(竹)	泉	熊	子開成B	子開成B

## 一年Bチーム

## 第一回戦

慶應高校

○佐々木 真一郎  
○橋本 光蔵  
○関 栄次郎

## 第二回戦

慶應高校

○佐々木  
○橋本  
○関

○佐々木  
○橋本  
○関

## 第三回戦

慶應高校

○佐々木  
○橋本  
○関

## 第四回戦

慶應高校

○佐々木  
○橋本  
○関

## 第五回戦(準決勝)

○佐々木  
○橋本  
○関

1 引 分	優勢	1 引 分	2 上四方 横四方	3 上四方 横四方	3 崩上四方 横四方	3 上四方 釣込腰
0		0	0	0	0	0

吉成	児島	青木	厚木	御園	末廣	柳橋	鶴工	A	高原	田中	平農	A	篠原	対島	河川	市立商
----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	---	----	----	----	-----

## 逗子開成B

佐々木 橋本 関  
慶應高校

## 第一回戦

慶應高校

○稻田 小倉  
○福田 倉英夫  
○田靖与

## 第二回戦

慶應高校

○稻田 小倉  
○福田 倉英夫  
○田靖与

## 第三回戦

慶應高校

○稻田 小倉  
○福田 倉英夫  
○田靖与

3 崩上四方	優勢	3 引分	2 釣込腰 上四方	3 横四方 継四方	0 巴投	0 引分
0		0	0	0	0	1

豊島	水口	松本	日大高A	岡野	吉川	鈴木	三浦高	和田	中丸	鈴木	藤沢高	○金子	和田矢島
----	----	----	------	----	----	----	-----	----	----	----	-----	-----	------

		第四回戦			
○伊 藤 木 野	○鈴 木 正 毅 敬	○福 田 稻 田	○小 倉 慶心高校A	○稻 田 福 田	○小 倉 慶心高校
慶心高校	慶心高校	慶心高校A	慶心高校A	慶心高校	慶心高校
第一回戦	第二回戦	第三回戦	第四回戦		
○伊 藤 木 野	○鈴 木 正 毅 敬	○福 田 稻 田	○稻 田 福 田		
慶心高校	慶心高校	慶心高校A	慶心高校A		
第一回戦	第二回戦	第三回戦	第四回戦		
○伊 藤 木 野	○鈴 木 正 毅 敬	○福 田 稻 田	○稻 田 福 田		
慶心高校	慶心高校	慶心高校A	慶心高校A		
足 払	内 股	内 股	外 刈	大 外 刈	崩 上 四 方
3 — 0	3 — 0	2 — 0	2 — 0	3 — 0	
山 下	松 岡	萩 沢	翠嵐高 A	星 野 慶心高校B	厚 木 神 名
相原高 A	佐々木	八代	中出	伊藤 木 照 正 彦 毅 敬	山 口 青 木

		第三回戦			
○伊 藤 木 野	○鈴 木 正 毅 敬	○福 田 稻 田	○稻 田 福 田	星 野 慶心高校	厚 木 神 名
慶心高校	慶心高校	慶心高校A	慶心高校A	慶心高校B	慶心高校
第一回戦	第二回戦	第三回戦	第四回戦		
○伊 藤 木 野	○鈴 木 正 毅 敬	○福 田 稻 田	○稻 田 福 田		
慶心高校	慶心高校	慶心高校A	慶心高校A		
足 払	内 股	内 股	外 刈	大 外 刈	崩 上 四 方
3 — 0	3 — 0	2 — 0	2 — 0	3 — 0	
山 下	松 岡	萩 沢	翠嵐高 A	星 野 慶心高校B	厚 木 神 名
相原高 A	佐々木	八代	中出	伊藤 木 照 正 彦 毅 敬	山 口 青 木

---

秋季第二回合宿(大学)

十一月二十八日(日)於 綱町道場

早慶戦最終合宿を行う。参加者は次の通り。

四年 宮崎 剛、熊切昭男、萩原正夫、田坂 昭、河合 靖之、遠藤千春、乾 俊夫、蜷川謙一、河内 清、水藤 三郎、竹内正和、宗宮直行

三年 堀越忠義、吉川文雄、高松静男、田中浩司、金成 祐徵、友田昌利、鈴木正道、成毛韶夫

二年 長戸英夫、飯塚国基、広瀬久也、久保雅義、久木

誠、高垣晃、鈴木澄夫、小高登志、長沼徹、永井稔、  
藤間哲也

一年 山際正明、鈴木一男、伊東弘人、小野喜也、峰岸  
弘夫

### 第六回早慶対抗柔道戦

十一月二十八日（日）午後二時より

於 講道館

昨年の雪辱を期して根本から練習方法を改めた塾柔道部はそのメンバーの大部分を早慶戦だけは必ず勝つて卒業を飾ろうとする固い信念を持つ最上級生で固めた。

選手オーダーも清水先生を中心に再三作成され、改正され、やっと出来上った。此のメンバーを交換した時、早稲田のマネージャーは「これは間違いではないんですね」と云う程にすっかり昨年と趣きを異にしたものであった。此様に機先を制した我軍は、敵メンバーの発表と同時に「しめた。此れは勝てる」と云う思いが現部員にも、先輩にも、師範方の胸にも括がって行つた。

此の思いを「今年こそ必ず勝とう。否、絶対勝たなければならぬ」と云う所まで持つて行くのはそれ程無理な事ではなかった。

目前の敵に全力をつくせ。負けて来ても慌てるな。勝つて来ても無理に抜こうとするな。各人の持場を守れ。

以上を毎日毎日清水師範より、色々な角度から繰返され、説明されながら、第六回の早慶戦にのぞんだ。（以上柔道部々報第三号（一九五四年）掲載早慶戦後記 成毛英臣より）

結果は、試合前の四分・六分で本塾不利との大方の予想を裏切つて、本塾が早慶戦初の優勝をものにした。

勝因は色々あるが、相手のオーダーに対する我方の予想的中で作戦的に先ず勝を占めていたこと、つまり宮崎、熊切の入れ替等思い切つた作戦をとつたこと、そして二段陣の充実、チームの和等各人の力量を信じ十二分に發揮した結果であろう。

試合は先鋒戦早大牧野二段に幸先よいスタートを切られたが、一番から十一番迄本塾の引分作戦が功を奏し本塾ペースで試合が進められた。中堅三段陣山際、長戸の働きでタイとなり、以後本塾有利となり、宮崎、熊切の絶対的強さにより本塾は勝利をつかんだ。

審判員 山本秀雄、清水正一、羽鳥輝久、大沢慶己

## 試合経過

先鋒

○ ○ 鈴 乾 広 田 水 蟻 竹 久 久 伊 飯 横 河  
 高 河 長 長 成 山 山  
 松 合 戸 戸 戸 毛 際 際 木  
 静 靖 英 韶 正 一 俊 久 浩 三 謙 正 雅 弘 国 永  
 男 之 夫 夫 明 男 夫 也 司 郎 一 和 誠 義 人 基 一 清  
 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

本

引 引 大 外 大 外 引 合 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引 引  
 外 刈 分 分 反 刈 分 技 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分 分  
 勢 股

先鋒

○ ○ 片 伊 竹 有 佐 岡 塩 次 長 小 野 岸 楊 高 結 平 牧 牧  
 峠 内 田 田 藤 田 沢 丸 川 塚 田 沢 口 野 城 本 野 野  
 政 陽 宏 経 洋 直 嘉 高 悅 友 高 大 良  
 美 一 諦 巍 肅 一 一 道 介 彥 治 清 昭 明 倭 介 行  
 (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2)

早稻田

早 稲 田	優 秀 選 手	大 将	○ ○ 堀 遠 吉 田 萩 萩		
			熊 宮 宮	切 崎 崎	越 川 坂 原 原
牧 野 敏 頬	長 戸 英 夫	昭 忠 千 文	正		
			熊 切	男 刚 義 春 雄	昭 夫
政 美	北 崎 宮 崎	剛	優 引 大 外 刈 跳 引 引 引		
			分	腰	分 分 分
北 崎 貞 敏	剛	大 将	石 川 北 北 結 藤 浜 国 峠		
			井 烟 崎 崎	城 田 岡 分	
			浩 貞 源 勝 元 草		
勇 吉	(4)	敏 介 久 夫	吉 (4) 敏 (3) 介 (3) 久 (3) 夫 (3)		